

（１）森林生態系の保全・再生

緊急保全対策（防鹿柵、剥皮防止用ネット、小規模防鹿柵等）により、ニホンジカによる林冠構成種の母樹および後継樹、下層植生への影響を抑制することはできており、後継樹や下層植生は回復しつつある。また、西大台の林冠ギャップ地については、小規模防鹿柵を設置した箇所では、森林更新が進み始めている。

しかしながら、東大台については、「トウヒ林保全対策事業」から設置されている防鹿柵や2014計画（第1次）から設置した稚樹保護柵により、自生稚樹の成長が進み始めているが、ミヤコザサ生育地ではトウヒ等針葉樹の実生の定着が阻害されており、森林更新は進んでいない。また、ミヤコザサの生育地の防鹿柵内では、ミヤコザサの繁茂により、実生の定着や後継樹の成長が阻害されていることから、ササ刈りなどの対策を組み合わせる必要がある。

大台ヶ原では、ニホンジカによる樹木の実生や樹皮、下層植生の採食を防ぐことを目的として、昭和62（1987）年から、防鹿柵の設置を開始した。現在では、大規模な防鹿柵だけでも、計65基、約85ha（令和3（2021）年3月現在）の大規模な防鹿柵を設置している。大規模防鹿柵や小規模防鹿柵を設置した箇所では、後継樹や下層植生の回復が見られている（図20）。



平成17（2005）年（設置後2年目）

林床にはシカの不嗜好性植物のミヤマシキミが目立っており、スズタケはほとんど見られなかった。



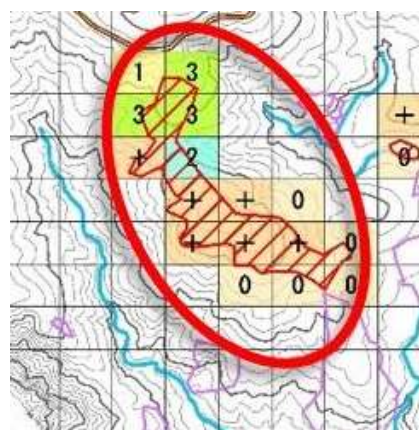
平成25（2013）年（設置後10年目）

林床のスズタケの被度、稈高の回復が進み、ミヤマシキミが目立たなくなった。



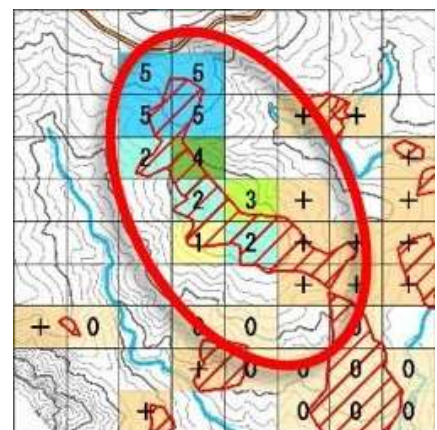
平成20（2012）年（設置後5年目）

防鹿柵内にスズタケはほとんど見られなかった



平成24（2012）年（設置後9年目）

防鹿柵内北側のスズタケの被度が回復し始めた



平成28（2016）年（設置後13年目）

スズタケ被度の回復がさらに進み、北側では被度5となった

図20 西大台に設置した大規模防鹿柵(No.22)内のスズタケ被度の変化



平成 12（2000）年に正木峠のミヤコザサ草地に設置した大規模防鹿柵（No. 5）では、防鹿柵内の自生稚樹が樹高 5m 程度にまで成長し、稚樹群を形成している。

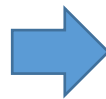
東大台の正木峠に設置した大規模防鹿柵内の自生稚樹の生育状況：平成 28（2016）年

西大台の林冠ギャップ地に小規模防鹿柵を設置した箇所では、下層植生が回復するとともに林冠構成種を含む樹木の後継樹が成長し、森林更新が進み始めている（図 21）。



平成 19（2007）年（柵設置後 1 年目）

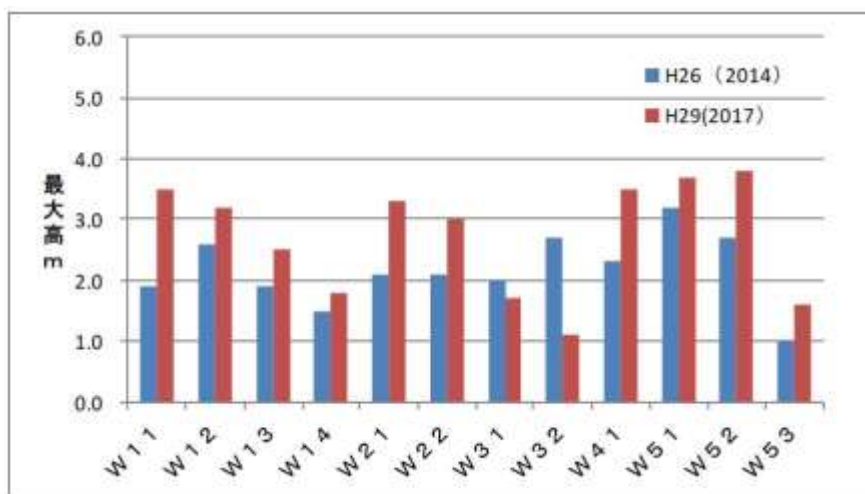
林床はシカの不嗜好性植物であるミヤマシキミが目立ち、下層植生や林冠構成種の後継樹はほとんど見られなかった



平成 26（2014）年（柵設置後 8 年目）

下層植生が回復するとともに、ヒノキやミズメといった林冠構成種の後継樹が成長し始めた

西大台のギャップ地に設置した小規模防鹿柵内の下層植生の変化



平成 29（2017）年
（柵設置後 11 年目）

多くの場所で林冠構成種後継樹の成長が見られ、森林更新が進み始めている。また、後継樹の樹高が 3m を超える場所も増えてきた。

図 21 西大台のギャップ地に設置した小規模防鹿柵内の林冠構成種後継樹の最大高の変化

東大台の森林後退箇所においては、自生稚樹保護のために稚樹保護柵を設置したことにより、トウヒ等の自生稚樹の成長が進み始めている。一方、周辺のミヤコザサよりも樹高が低い自生稚樹は、ミヤコザサによる被圧等により成長が抑制されることから、坪刈りなどの管理を合わせて継続していくことが必要となる。



頂芽が伸長している。

稚樹保護柵内の稚樹の周囲は坪刈りを実施している。

平成 29（2017）年
（稚樹保護柵設置後 4 年目）の自生稚樹

東大台のミヤコザサ生育地の防鹿柵内では、ミヤコザサより樹高の高いトウヒ等針葉樹の後継樹の成長は見られるが、ミヤコザサが密生しているため、新たな後継樹や実生の定着が抑制されており森林更新が進んでいない。また、防鹿柵外においても、ミヤコザサ生育地では後継樹の成長や新たな定着は見られておらず森林更新が進んでいない。森林更新のためには、トウヒ等針葉樹にかかわらず、後継樹となる樹木実生の定着環境を整えることが課題となっている。



正木峠の防鹿柵内の様子
平成 28（2016）年（柵設置後 13 年目）

正木峠に設置された大規模防鹿柵内ではミヤコザサが密生し、ミヤコザサより樹高の高い後継樹がいくつか見られるが、新たな実生や稚樹の定着は見られず、森林更新は進んでいない。



正木峠の防鹿柵外の様子
平成 28（2016）年

ミヤコザサが密生し、ミヤコザサよりも樹高の高い後継樹がほとんど見られず、森林更新は進んでいない。